



実証運行結果の概要 (前回報告内容)

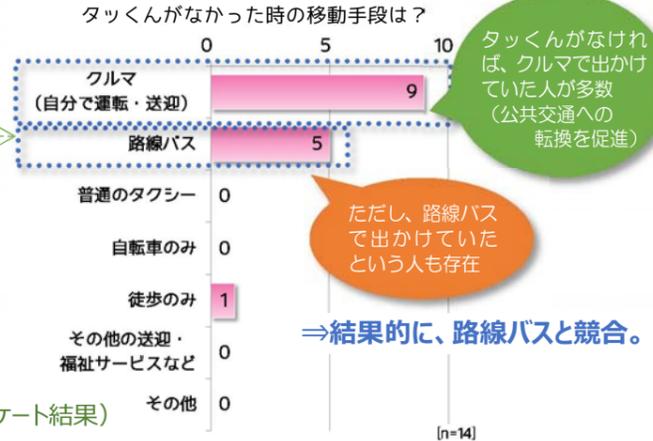
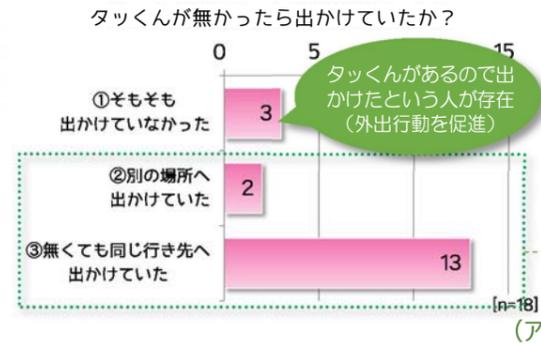
- **実証運行** 2018年1月4日～3月23日 南横山校区において運行。
- **期間中の利用件数は、計75件。利用人数は、延べ115人。**
⇒徐々に増加したが、リピータが多く、地域に広く普及するには至らなかった。
- **行き先は、シティプラザ周辺の店舗等や、和泉中央駅が多い。**
⇒和泉中央から電車に乗る人は多いが、バスに乗り換える人は少ない。
その他では、オークワ和泉納花店、横山病院への利用者も。



実証運行の結果、課題となった点

- **「相乗り」は、期間中5便のみ。**
⇒避けられたわけではなく、重複する機会が少なかった。
- **町会によって、利用状況等に差異があった。**
延べ予約・利用件数 (75件中)
・父鬼町38件、側川27件、大野町5件 (その他5)
(予約経験者: 父鬼町9人、側川7人、大野町1人 (その他3) 同乗者除く)
(参考 町会の人数: H30年3月の地区別人口、町会の情報より)
父鬼町約520人、側川約40人、大野町約340人)

■ タックくんがなくても出かけていた、という人のなかには…



今後に向けた協議、実証運行結果の考察

地域住民との意見交換会での意見等

(父鬼町・側川・大野町の3町会で各々開催)

- 実証運行は短期間であったが、**実際に一定の利用がありニーズがある**ことが分かった。 ■ **利用者には、タックくんが便利で非常に好評。** ■ タックくんがあったため、**試しに使って外出してみようと思った人、ふだんは家族に送迎してもらっているが一人でタックくんを出かけてみようと思った人等**がいた (不安だったため初回は家族付き添いで利用し、要領がわかれば一人で利用するという人もいた)。 ■ **町内の会合での情報や乗務員のホスピタリティ**もあり、利用者からは、**高齢者でも安心して気軽に出かけられる**との声が多い。 ■ 和泉中央駅及びその付近の買い物への利用が多く、その他では横山病院、オークワ和泉納花店への利用もあり、**リピータ**も多かった。 ■ 相乗り経験者は、**抵抗感**はなかったとのこと。 ■ 鉄道等への乗り継ぎも含め、利用者はダイヤに合わせて行動することにも抵抗感はなかったとのこと。 ■ 高齢者が多く、今回の実証運行をきっかけとした会合等のコミュニケーションが、考える、慣れる機会として役立ち、**町会として積極的な参加**もあった。
- 例えば市立病院までの移動や、一度の外出で校区外の目的地 (例: オークワ和泉納花店とシティプラザ) に続けて行きたいとのニーズもある。 ■ 高齢者が多く、予約電話や復路の予約に不慣れ等で利用を断念するケースもあり、**地域全体には浸透しきれなかった。**
- 現在はクルマ (自分で運転、または送迎) で移動でき公共交通への利用意識は低く、「**タックくんのような手段が、何年か先にあったらいい**」という意識の傾向。なお、**町会によっては (特に側川)、免許返納を検討する人が多く、かつ町内にクルマで送迎できる人がいなくなっており、タックくんのような手段が、すぐにでも必要との意見**がある。



運行事業者、協力店舗・病院の意見等

【運行事業者】

- 定員を超える便はなく、予約のなかった便が大多数 (670便) であったことから、**実施するとすれば、今回の車両の大きさ (タクシー)、及びデマンド方式は妥当。**タクシー車両であれば、予約のない時に、通常営業も可能であり運営しやすい (ただし運行ルートやダイヤの条件にもよる)。
- **地域貢献**できることに意義があり、今回は、短期間で一定の利用者数があり、利用者に喜んで頂けたため良かった。

【協力店舗・病院】 (敷地への乗り入れ、ポスター掲示等に協力)

- タックくんを見かけることはあったが**来訪者が増えるほどの利用状況ではなかった。**終了後も時々問合せがあった。
- **今後**同様の取り組みがあれば**協力は可能。**利用促進のアイデア・工夫等も内容次第で協力可能。
- なお、週一回の南横山診療所 (父鬼町会館への出張診療) が、同法人である横山病院への集約化に向け検討中。現在、**横山病院行きのバス等はない。**

関係者 (運輸支局等) の意見、助言

- 今回の交通手段は、短期間にもかかわらず一定の利用があり、利用者の満足度も高いため、市内の他地域も含め、**試行・適用の可能性**がある。
- 利用者の行き先は「**和泉シティプラザ (和泉中央)**」が大半を占める。父鬼～和泉中央には「**父鬼線**」が運行しており、クルマ依存が高く**公共交通の利用が少ないなか、結果的に、競合する可能性**がある。(道路に限られており、バス停のある区間との重複を避け難い)
* 父鬼線: 営利サービスとして成り立たない乗合バスに関し、交通弱者をはじめ地域住民に不可欠な生活交通手段として存続を図るとの位置づけの補助路線。
- **父鬼線は、大阪府の地域間幹線系統確保維持路線 (国の補助路線)。**実証運行の開始当初から状況が変わり、路線バスの**生産性の向上**に取り組んでいかなければならない。その状況で、父鬼線の生産性を**圧迫する可能性のある交通手段の導入は避けなければならない。**



検討の結果

(実証運行によって、今後、市内各地域の状況に応じて、試行・適用できる可能性が見出されましたが、)

- **南横山校区デマンド型乗合い交通 (走れ! タックくん) については、今回の実証運行のかたちでの導入を、見送ることとします。**
- **ただし、本地域における交通手段の確保策については、デマンド型交通の実施そのものの見直しや他の交通サービスの導入も含め、地域住民及び交通事業者等との合意形成を行い、持続性の高い地域公共交通ネットワークの構築に取り組んでいきます。**

(今後のポイントとなる事項)

- ・地区 (町会) による差異があった現状もふまえ、意見交換。
・特に「側川」は、居住者が最も少ないが、最も積極的な参加等が見られた。

- ・父鬼線の利用実態、沿線住民の意向等を調査し、今後の可能性を模索。
・利用が少なく朝夕、昼間にも差があるとみられる。
・大型バス、タックくんのような手段、その中間タイプ等の組み合わせの可能性等。

- ・父鬼の出張診療の横山病院への集約に伴う支援の要否を調査。
・横山病院行きのニーズが生じるかどうか。